

西東京・生活者ネットワーク 活動レポート



TEL 042-453-4121
FAX 042-410-0014

E-mail / nishitokyo@seikatsusha.net
https://nishitokyo.seikatsusha.me/

政治をもっと、身近なものに。

一人ひとりの生活の中から生まれた実感を
きちんと政治につなげ、社会全体を良いものにしていきたい。
これが私たち、生活者ネットワークの望みです。

No.114

発行日 / 2025年7月22日

発行責任者 / 広瀬 郁美

市議会議員 ● 後藤 ゆう子

市議会議員 ● かとう 涼子

〒202-0015 西東京市保谷町6-25-1-102

TEL 042-453-4121



「令和の米騒動」から食を考える

昨夏から続く米不足から急激な価格高騰、そして政府の備蓄米放出という「令和の米騒動」は、米はいつでも手ごろな価格で欲しい量を買えると思っていた私たちに衝撃を与えました。

騒動の原因は、米の栽培面積の減少や、夏の高温で歩留まりが悪く流通量が減少したこと、さらには減反政策で主食用米から他の作物への転換が促進されたことなど、さまざまな要因で起きたと考えられています。

米だけでなく野菜、肉、魚などの食料供給に大きく貢献している第一次産業の就業者数の減少は、食料自給率の低下や食糧危機につながる不安要素です。

非常時に備えて市民の米を確保 ——泉大津市に注目

大阪府泉大津市では、2023年夏から、全国の農業生産地の自治体と農業連携協定を結び、平時から米を直接買い付ける仕組みを導入しています。その目的は、「不測の事態で食料供給が止まった場合、農業連携によって、市民のための食料を確保する」というもの。平時は学校給食に使用していますが、米不足の今夏は、希望する市民にも特別に販売できるように準備を進めているそうです。

泉大津市の南出賢一市長は、実際に農村を歩き、生産者の平均年齢の高さや、肥料やトラクターなどの生産資材

の価格高騰、米を作っても赤字になる農政の課題などを聞き取る中から米不足を予測し、率先して備えてきたそうです。

西東京市は都心のベッドタウンで、農業生産基盤が弱い自治体です。「目の先の市場原理に左右されない食料供給の仕組みづくりを実現させたい」という南出市長の取り組みにならい、6月議会では、主食である米の生産地との連携を、まずは友好都市から進めてはどうかと提案しました。池澤市長の答弁は、「ご意見を参考に調査します」というものでした。

近隣の三鷹市でも、茨城県利根町と給食食材の調達に関する連携協定を結んだそうです。令和の米騒動を機に、「食」をテーマにした自治体間連携についての調査や提案を続けていきます。
(後藤ゆう子)



▲生活クラブ生協のお米の生産者交流会に参加

まさかの道路陥没、西東京市でも…

5月20日(火)の深夜、ひばりが丘駅南口の谷戸町3丁目の市道に亀裂があるのを歩行者が発見。現場に直行した市職員が調べたところ、地中に縦1.6m、横0.7m、深さ0.9mの空洞があることが判明しました。現場は、学習塾や飲食店が立ち並び、バス通りに面した横断歩道。応急処置が早く、陥没には至らなかったものの、これがもし日中だったら…と思うとゾッとします。

原因は下水道管の破損

地中の空洞は、下水道管(污水管)とマンホールの接続部分の破損箇所から、土砂が管内に流れ込み生じたものとみ

られています。埼玉県八潮市の大規模道路陥没では、地下10mに埋設された口径4.75mの大型下水道管に大量の土砂が流れ込み、災害級の事故となりました。今回破損した管の口径は約25cm。八潮市とは比較にならない大きさの枝管でしたが、これだけの空洞が生じたことは驚きです。

予兆を発見できなかったのか

不測の事態を未然に防ぐため、市は5年に1度、レーダー探査機器を搭載した車を主要な市道に走らせ、路面下に空洞が生じていないか調査しています。当該箇所は昨年9月に調査を実施、さらに八潮市の事故を受け、今年3月

に巡視点検もしていましたが、いずれも「予兆は発見できなかった」(市の幹部)とのこと。

市内の下水道管の総延長は約404キロメートル。その多くが耐用年数となる50年を迎えます。今回の事件を、老朽化したインフラからの警鐘と受け止めなければなりません。

点検・調査の精度を高め、事故の未然防止を！

市道だけでもこの5年間に4カ所で道路陥没が起きています。6月議会では、管路の点検頻度と手法の見直しを提起しました。点検の効率性と精度を高めるために、AIなど新技術の導入



▲谷戸町の空洞発生箇所(黄色の囲み)

も必要です。見えないインフラが安全・安心に維持管理されるよう、今後も注視していきます。
(かとう涼子)

ひとことアンケートにご協力ください！

今年のテーマは「ワークライフバランス」と「香害」です。ご意見をもとに、市に政策提案を行います。ご協力よろしくお願いします！



▲アンケートは、
こちらからご覧ください

碧山小・明保中の学校給食、 2学期再開へ

給食調理業者の撤退により、外注弁当での対応が続いていた碧山小・明保中の学校給食が、2学期から再開します。今回の事態を受け、調理器具の点検項目や確認体制が改善されたほか、単年度ごとに行われてきた契約方法の見直しも検討されています。

現場の調理員が快適かつ安心して働き続けられる労働環境の整備を、引き続き求めていきます。



南町のボール遊び広場が、来年4月にも閉鎖に

サッカーやキャッチボールが思いきりできる、地域に親しまれてきた柳沢児童広場(南町調節池)が、早ければ来年4月にも閉鎖されます。増水に備えて石神井川の地下にトンネル式の調節池を作るためですが、子どもたちへの影響ははかり知れません。

代替地として、南町3丁目に新しいボール広場が整備されますが、利用者への周知が進んでいません。「子どもど真ん中」の町として、地域の子どものためにどう説明し理解を得るのか。まさに正念場です。

